

Ⅱ 調査結果の概要

1 観光客の概況

(1) 総観光客数

① 平成20年の総観光客数

単位：万人，%

区分	平成20年	平成19年	対前年増減	対前年比
総観光客数	5,632	5,761	▲129	▲2.2

平成20年の総観光客数は、5,632万人で、平成19年と比べて129万人(▲2.2%)減少した。

主な要因としては、ガソリン価格の高騰や世界的な景気の後退などにより、多くの県内市町で観光客が減少したことが挙げられる。

主な増減でみると、大和ミュージアムなど観光施設への観光客が減少した呉市が42万人、広島ニュージールランド村が休園となった安芸高田市が32万人減少している。

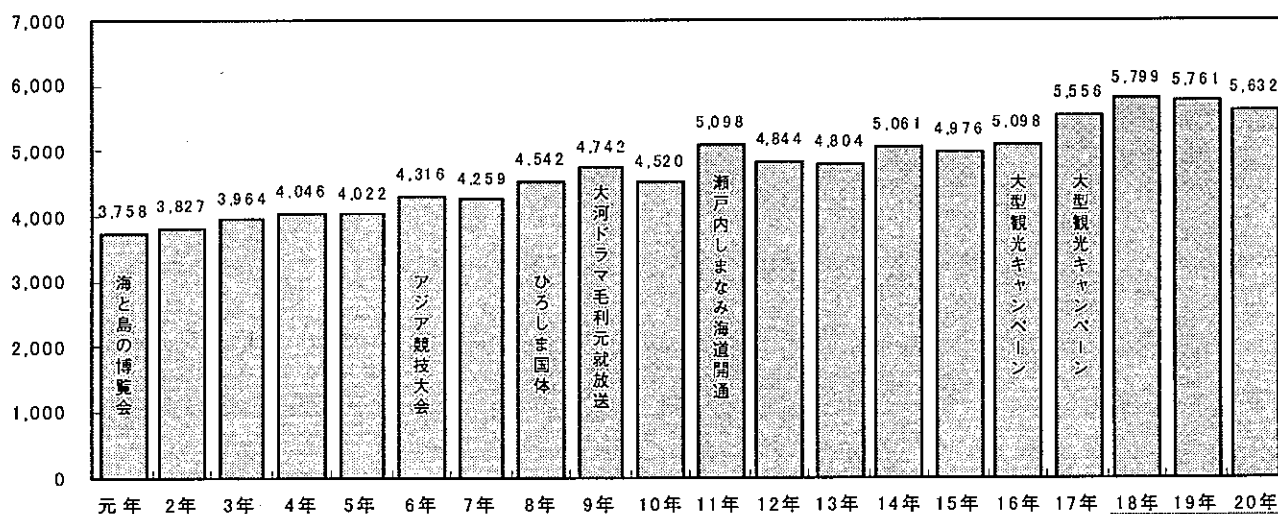
一方、宮島への観光客が345万人と過去最高を更新した廿日市市は、30万人増加している。

② 総観光客数の推移

本県の総観光客数は、平成元年以降ほぼ順調に推移し、「瀬戸内しまなみ海道」が開通した平成11年には、はじめて5,000万人を上回った。また、大型観光キャンペーンの効果もあり、平成16年から平成18年と3年連続して過去最高を更新し、平成19、20年と減少したものの、おおむね堅調に推移している。

図1 総観光客数の推移

単位：万人



単位：万人，%

区分	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
総観光客数	3,758	3,827	3,964	4,046	4,022	4,316	4,259	4,542	4,742	4,520	5,098	4,844	4,804	5,061	4,976	5,098	5,556	5,799	5,761	5,632
対前年比	132	1.8	3.6	2.1	▲0.6	7.3	▲1.3	6.7	4.4	▲4.7	12.8	▲5.0	▲0.8	5.4	▲1.7	2.5	9.0	4.4	▲0.7	▲2.2
元年基準の指数	100	101.8	105.5	107.7	107	114.8	113.3	120.9	126.2	120.3	135.6	128.9	127.8	134.7	132.4	135.7	147.8	154.3	153.3	149.9

(2) 市町・地区別観光客の状況

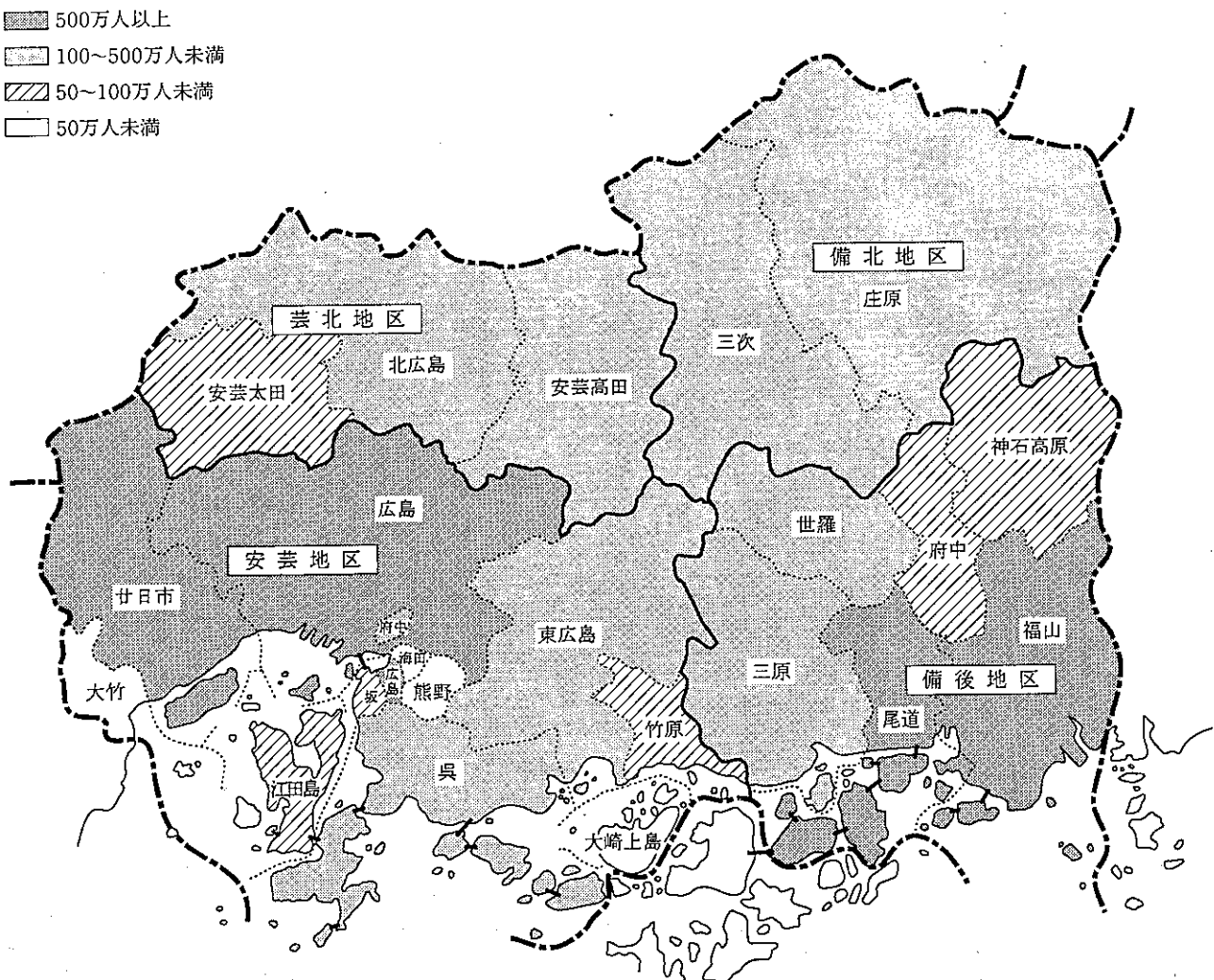
① 市町別総観光客数の状況

区 分	市町数	前年と比べて	
		増加した市町	減少した市町
500 万人以上	4 市	廿日市市	広島市, 尾道市, 福山市
100~500 万人未満	9 市町	北広島町, 三原市	呉市, 安芸高田市, 三次市, 世羅町, 府中町, 庄原市, 東広島市
50~100 万人未満	6 市町	安芸太田町	府中市, 竹原市, 坂町, 江田島市, 神石高原町
50 万人未満	4 市町	熊野町, 大竹市	海田町, 大崎上島町

総観光客数を市町別に見ると、広島市、福山市、廿日市市、尾道市、呉市などの瀬戸内海沿岸地域を中心に、総観光客数が多いことがわかる。

なお、前年に比べて総観光客数が増加した市町は6、減少した市町は17である。

図2 総観光客数の市町別状況



② 市町別総観光客数の順位（上位10位）

単位：千人，%

順位	市町名	平成20年	平成19年	対前年増減	対前年比	前年順位
1位	広島市	11,501	11,710	▲209	▲1.8	1位
2位	福山市	6,228	6,286	▲58	▲0.9	2位
3位	廿日市市	5,922	5,619	▲303	▲5.4	3位
4位	尾道市	5,421	5,522	▲101	▲1.8	4位
5位	呉市	4,338	4,754	▲416	▲8.8	5位
6位	三次市	2,902	3,100	▲198	▲6.4	6位
7位	庄原市	2,538	2,608	▲70	▲2.7	7位
8位	東広島市	2,526	2,584	▲58	▲2.2	8位
9位	北広島町	2,442	2,250	▲192	▲8.5	9位
10位	三原市	2,211	2,156	▲55	▲2.6	10位

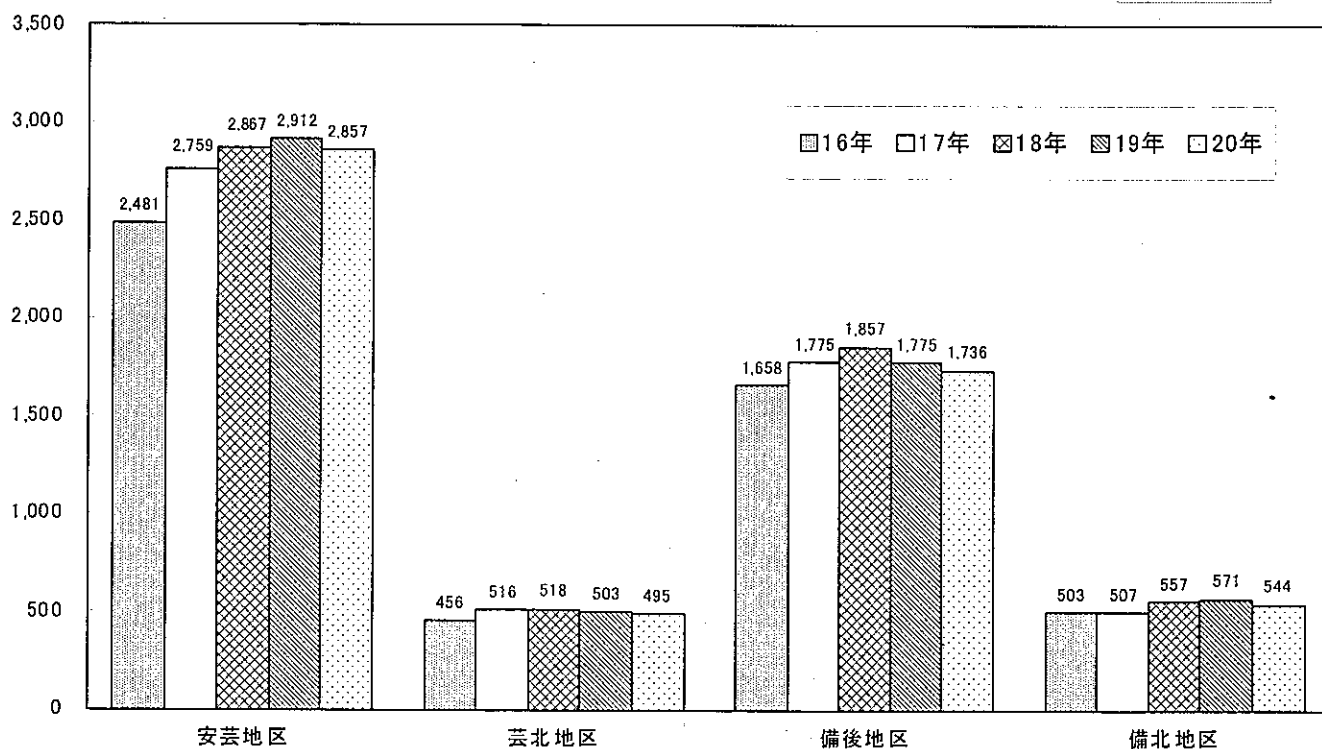
上位10市町の中では、廿日市市、北広島町及び三原市が対前年比増となったが、呉市や三次市では5%を超える減少となっている。

③ 地区別総観光客数の状況

地区別では、前年と比較してどの地区も減少しており、安芸地区が55万人（▲1.9%）、芸北地区は8万人（▲1.6%）、備後地区は39万人（▲2.2%）、備北地区は27万人（▲4.7%）の減となっている。

図3 地区別総観光客数の状況

単位：万人



(3) 発地別観光客の状況

① 県内・県外観光客の状況

単位：万人、%

区分	平成20年	平成20年構成比	平成19年	対前年増減	対前年比
県内	3,301	58.6	3,402	▲101	▲3.0
県外	2,331	41.4	2,359	▲28	▲1.2

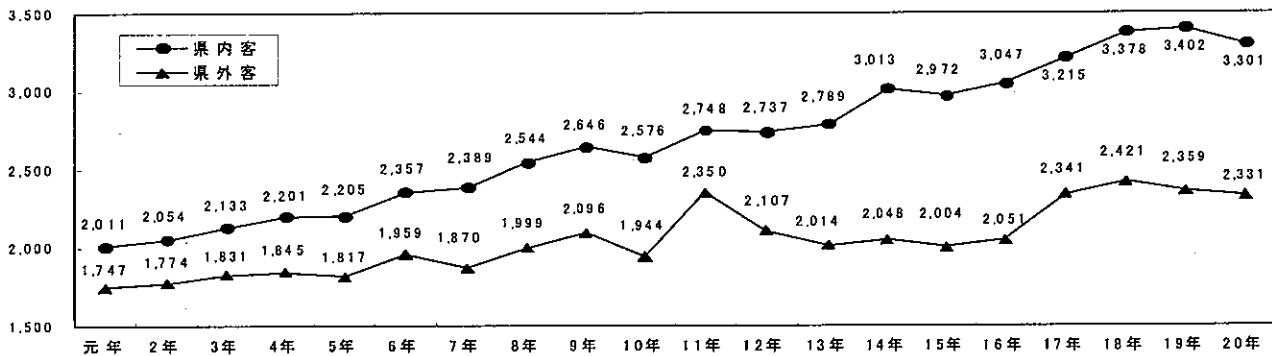
総観光客数に占める県内観光客の割合は58.6%，県外観光客は41.4%であり，前年比減少幅は県内観光客（▲3.0%）の方が大きい。

② 県内・県外観光客数の推移

県外観光客数は平成11年以降，10年連続して2,000万人を超えている。また，県内観光客（地元観光客を含む）数も，5年連続3,000万人を超えている。

図4 県内・県外観光客数の推移

単位：万人

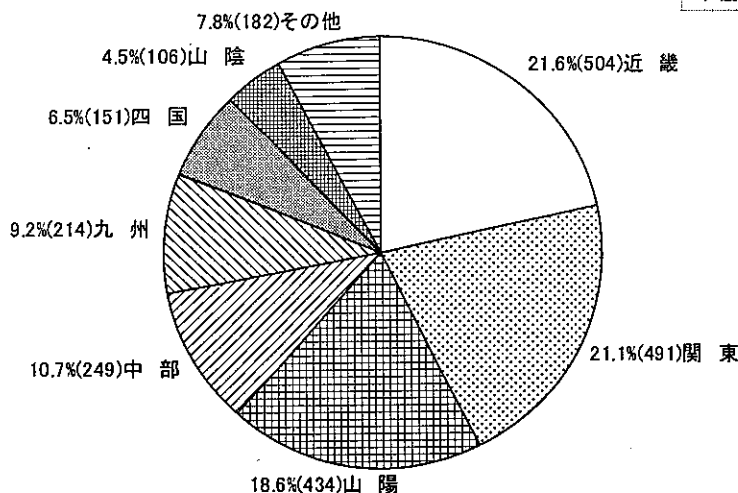


③ 県外観光客の発地別状況

県外観光客を発地別にみると，「近畿地方」504万人（21.6%），「関東地方」491万人（21.1%），「山陽地方」434万人（18.6%），「中部地方」249万人（10.7%），「九州地方」214万人（9.2%），「四国地方」151万人（6.5%），「山陰地方」106万人（4.5%）の順になっている。

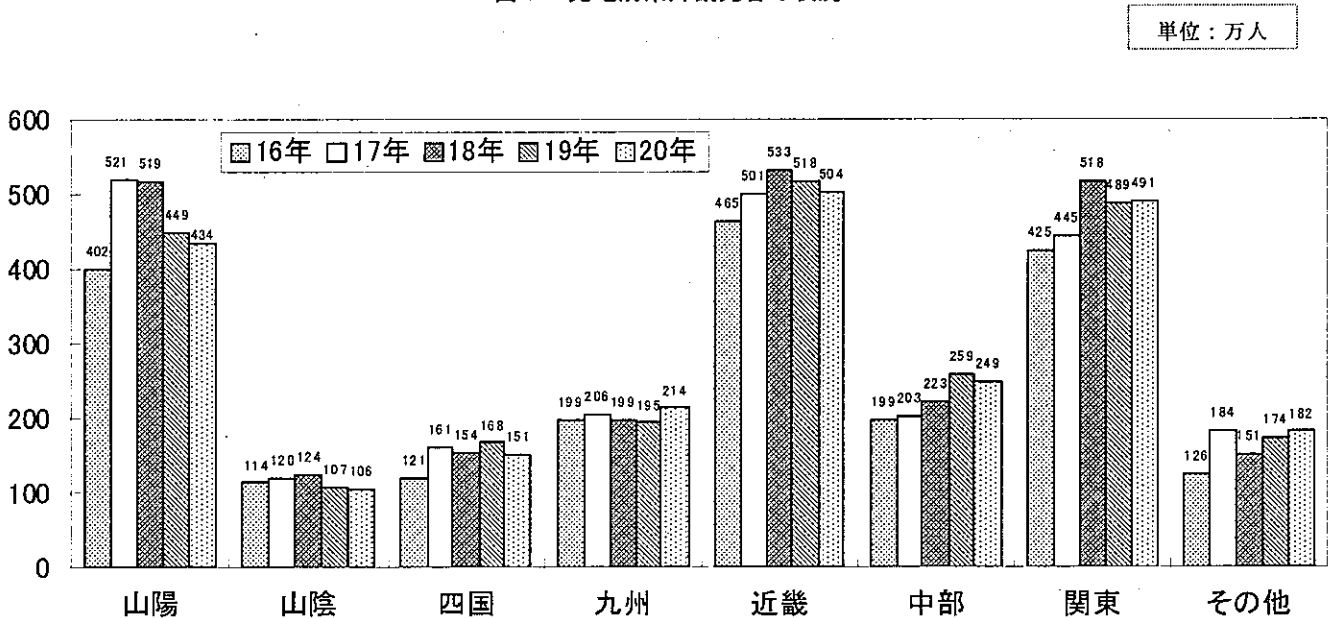
図5 発地別県外観光客数の割合

単位：万人



また、前年と比べた場合、「九州地方」からは19万人、関東地方からは2万人の増加となっているが、他の地方は減少している。

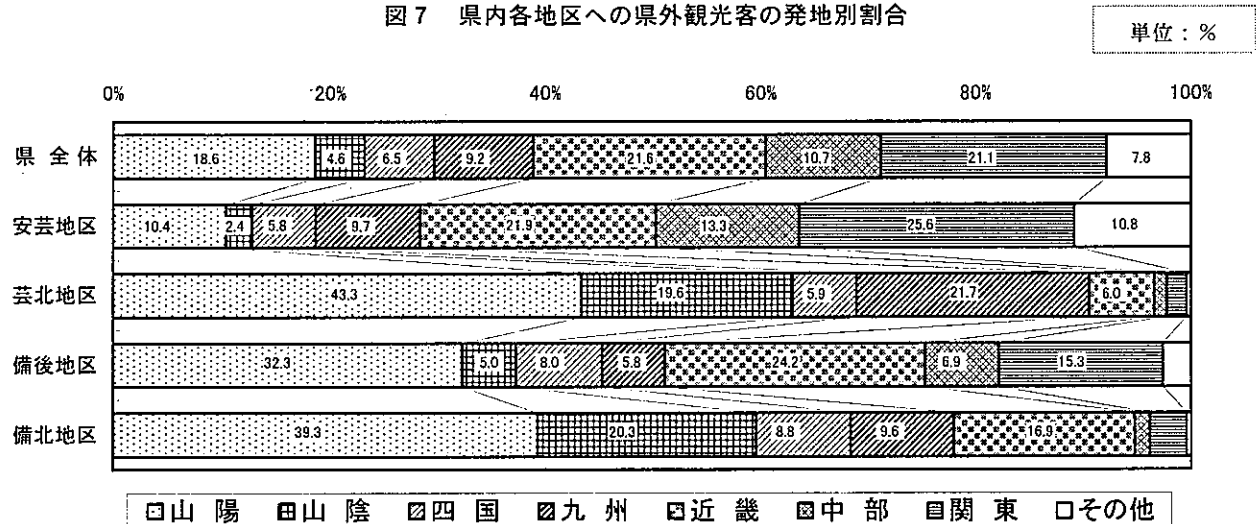
図6 発地別県外観光客の状況



④ 地区別にみる発地別県外観光客の状況

安芸地区は「関東、近畿、中部地方」など大都市圏からの観光客が高い割合を占めている。また、芸北地区は「山陽、九州、山陰地方」から、備後地区は「山陽、近畿、関東地方」から、備北地区は「山陽、山陰、近畿地方」からの観光客が高い割合を占めている。

図7 県内各地区への県外観光客の発地別割合

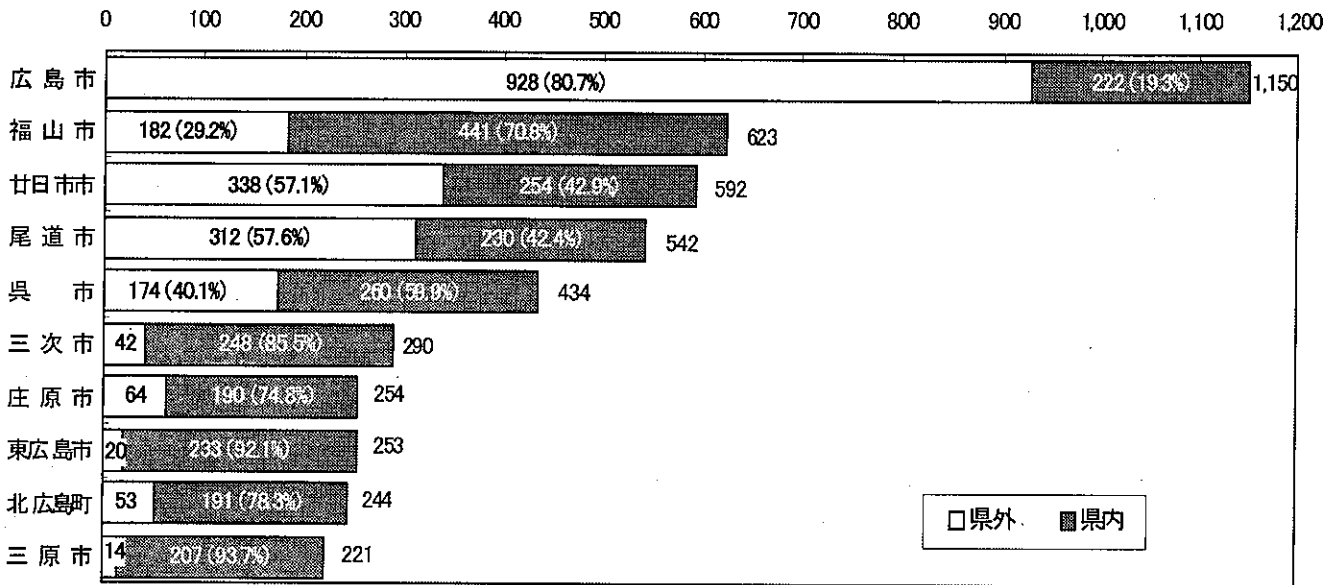


⑤ 市町別にみる県内・県外観光客の状況

観光客数の上位10市のうち、県外客の比率が県全体の平均41.4%を上回っているのは、広島市(80.7%)、尾道市(57.6%)、廿日市市(57.1%)の3市であった。

図8 市町別県内・県外別観光客数(上位10市町)

単位：万人

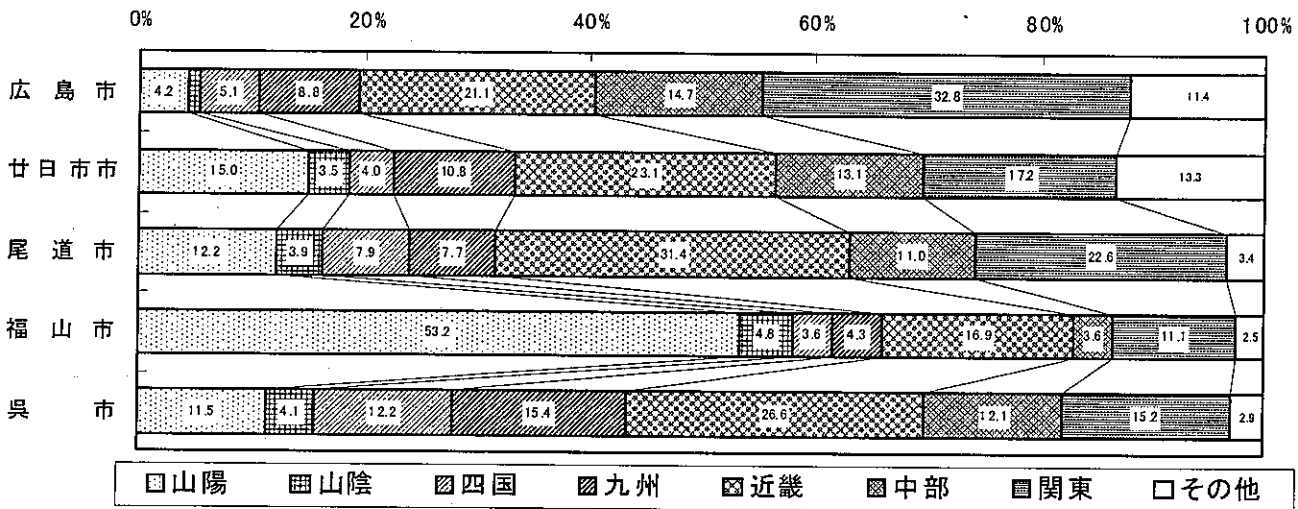


⑥ 市町別にみる県外観光客の発地別状況

県外からの観光客数が多い上位5市を見ると、広島市、廿日市市、尾道市、呉市は「関東・近畿地方」の大都市圏から、福山市については「山陽地方」など近隣県からの観光客が高い割合を占めている。

図9 市町別県外観光客の発地別割合(上位5市町)

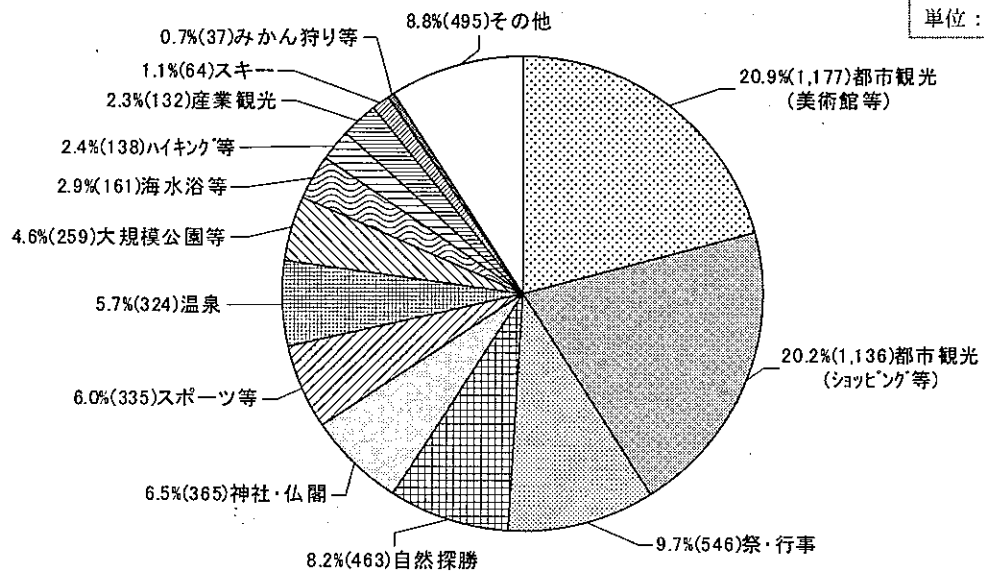
単位：%



(4) 目的別観光客の状況

目的別では、「都市観光」が41.1%と最も高く（うち「美術館等」が20.9%、「ショッピング等」が20.2%）、次いで「祭・行事」の9.7%、「自然探勝」の8.2%となっている。

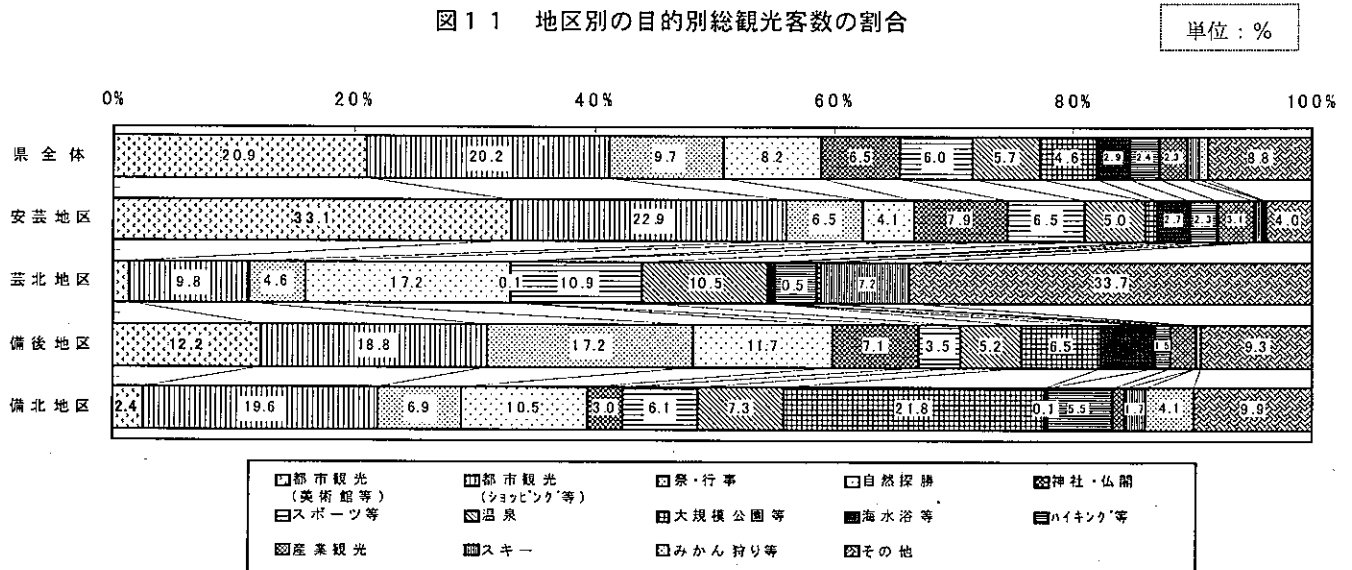
図10 目的別総観光客数の割合



(注) 都市観光：都市を見たり、都市で学ぶことを目的としたもの
 (美術館等)：美術館、博物館、動・植物園、水族館等
 (ショッピング等)：非日常の買い物や食事、映画鑑賞等
 産業観光：工場見学、特産品づくりを目的としたもの

次に、地区別に目的別観光客の割合を見ると、安芸地区では「都市観光」(56.0%)が圧倒的に多く、芸北地区では「自然探勝」(17.2%)、備後地区では「都市観光」(30.9%)と「祭・行事」(17.2%)、備北地区では「都市観光」(22.1%)と「大規模公園等」(21.8%)が高い割合となっている。

図11 地区別の目的別総観光客数の割合



(5) 旅行形態別観光客の状況

単位：万人，%

① 日帰り客・宿泊客の状況

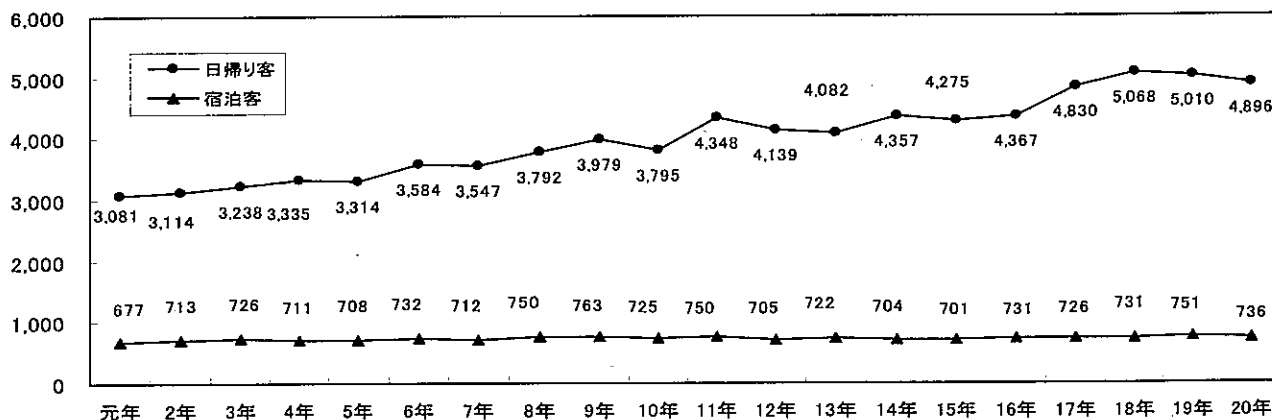
区分	日帰り客		宿泊客	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比
安芸地区	2,356	82.5	501	17.5
芸北地区	482	97.4	13	2.6
備後地区	1,557	89.7	179	10.3
備北地区	501	92.1	43	7.9
広島県全体	4,896	86.9	736	13.1

観光客数のうち日帰り客数は4,896万人(86.9%)、宿泊客は736万人(13.1%)となっている。

日帰り客を地区別にみると、安芸地区2,356万人、備後地区1,557万人、備北地区501万人、芸北地区482万人の順になっている。

また、宿泊客は、安芸地区501万人が県全体の7割近く(68.0%)を占めており、次いで備後地区179万人、備北地区43万人、芸北地区13万人の順になっている。

図12 日帰り客・宿泊客数の推移



※ 平成18年調査から、本県の観光客数統計の代表数値を従前の「入込観光客数」から「総観光客数」に変更したため、元年まで遡って推計値に置き換えた。

単位：万人

② 一般客・団体客・修学旅行者^(注)の状況

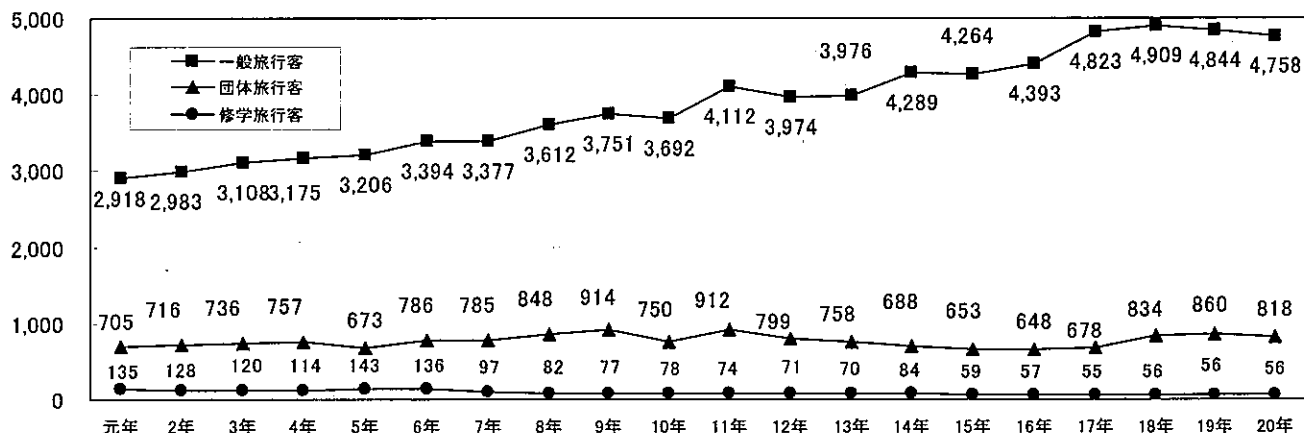
区分	一般客		団体客		修学旅行者	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比
安芸地区	2,334	81.7	471	16.5	52	1.8
芸北地区	444	89.7	51	10.3	0	0.0
備後地区	1,527	87.9	208	12.0	1	0.1
備北地区	453	83.3	88	16.2	3	0.5
広島県全体	4,758	84.5	818	14.5	56	1.0

観光客数を一般客、団体客、修学旅行者別にみると、一般客が4,758万人と最も多く全体の84.5%を占めている。なお、団体客は818万人、修学旅行者は56万人となっている。

(注) 団体客：10人以上の団体旅行者、一般客：団体客、修学旅行者以外の旅行者

図13 一般客・団体客・修学旅行客数の推移

単位：万人

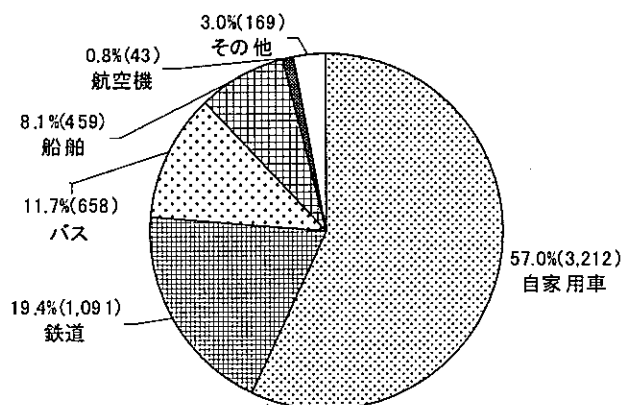


※ 平成18年調査から、本県の観光客数統計の代表数値を従前の「入込観光客数」から「総観光客数」に変更したため、元年まで遡って推計値に置き換えた。

(6) 交通機関別総観光客の状況

観光客の利用交通機関をみると、自家用車を利用したいわゆる「マイカー客」が、3,212万人と最も多く、観光客全体の57.0%を占めている。

図14 交通機関別総観光客の割合

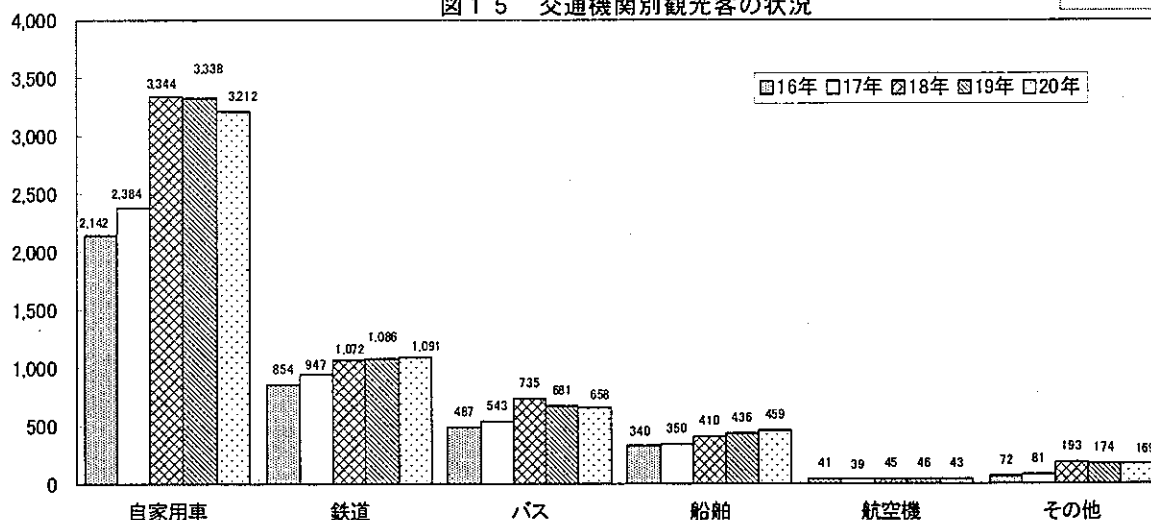


前年と比べた場合、船舶利用者が23万人増加しているが、これは宮島への観光客の増加が大きく影響している。

また、鉄道利用者は5万人増加しているが、他の交通機関は減少している。

図15 交通機関別観光客の状況

単位：万人



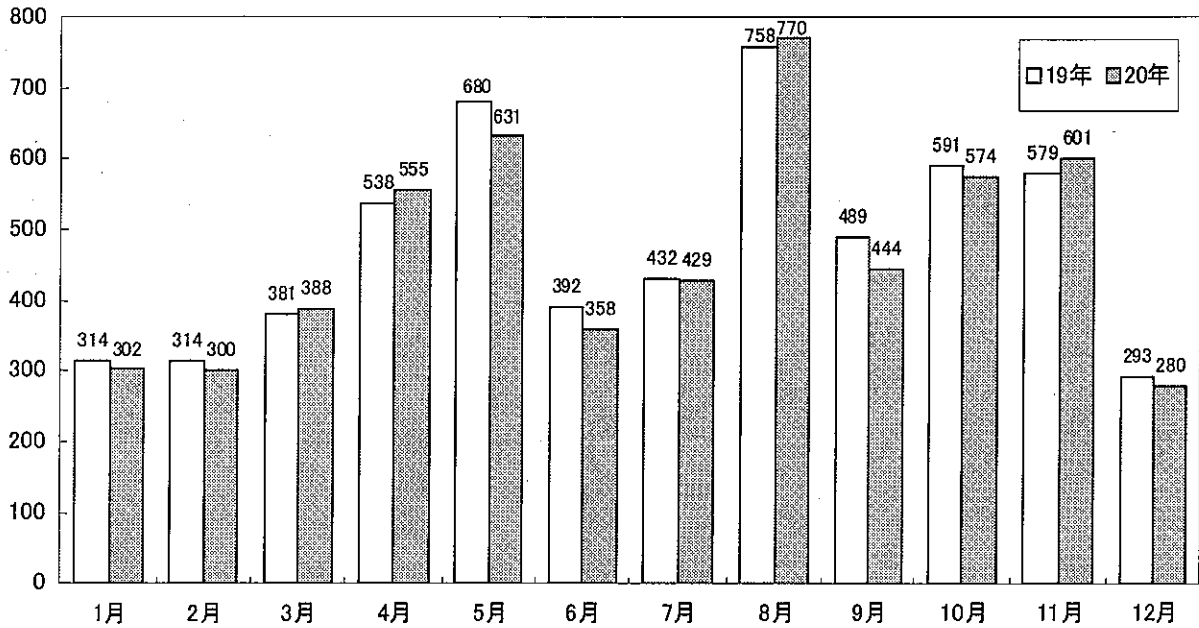
(7) 月別・季節別観光客の状況

① 月別総観光客数の状況

月別に見ると、最も観光客が多かったのは、8月の770万人、次いで5月の631万人、11月の601万人、10月の574万人、12月の280万人となっている。

図16 月別総観光客数の状況

単位：万人

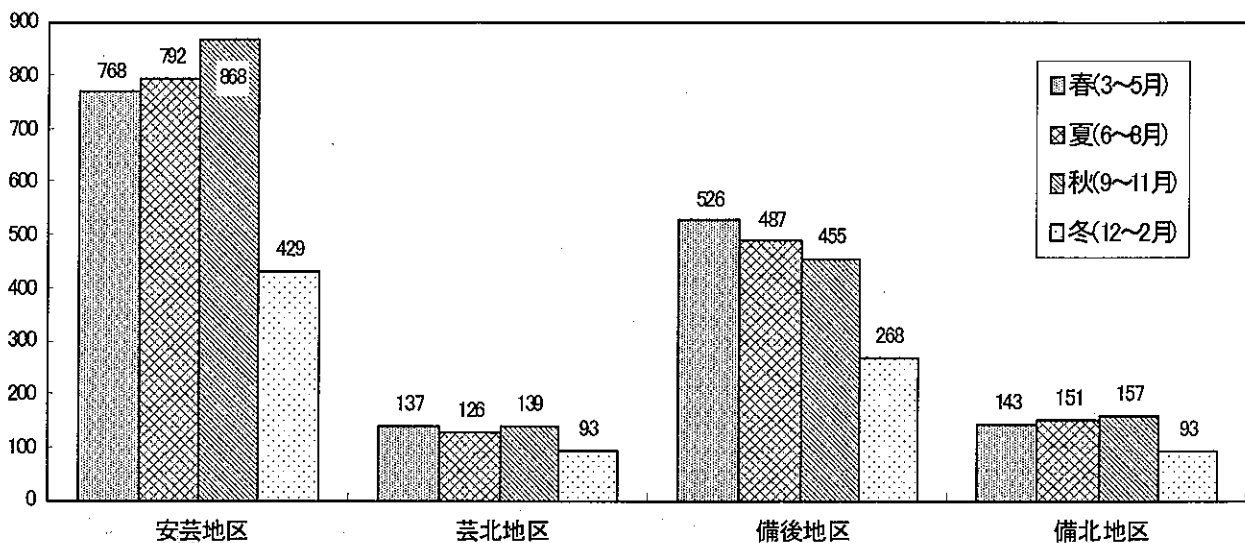


② 地区別・季節別総観光客数の状況

季節別に見ると、安芸地区、芸北地区、備北地区においては、秋に観光客が最も多くなっている。また、備後地区においては春に観光客が多くなっている。

図17 地区別・季節別総観光客数

単位：万人



2 外国人観光客の状況

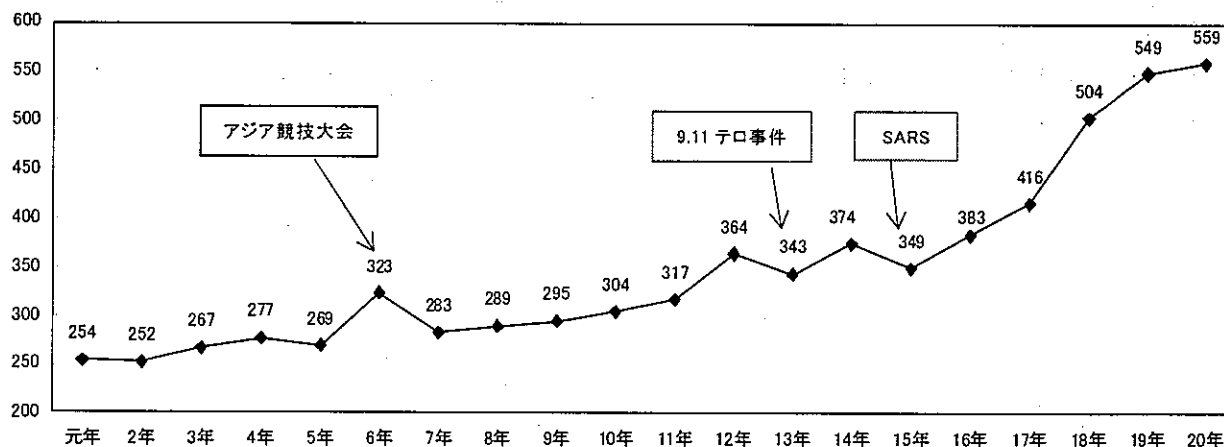
単位：千人，%

区分	平成20年	平成19年	対前年増減	対前年比
外国人観光客数	559	549	10	1.8

平成20年に本県を訪れた外国人観光客は559千人となっており、前年と比べて10千人（1.8%）増加し、5年連続過去最多となっている。

図18 外国人観光客数の推移

単位：千人

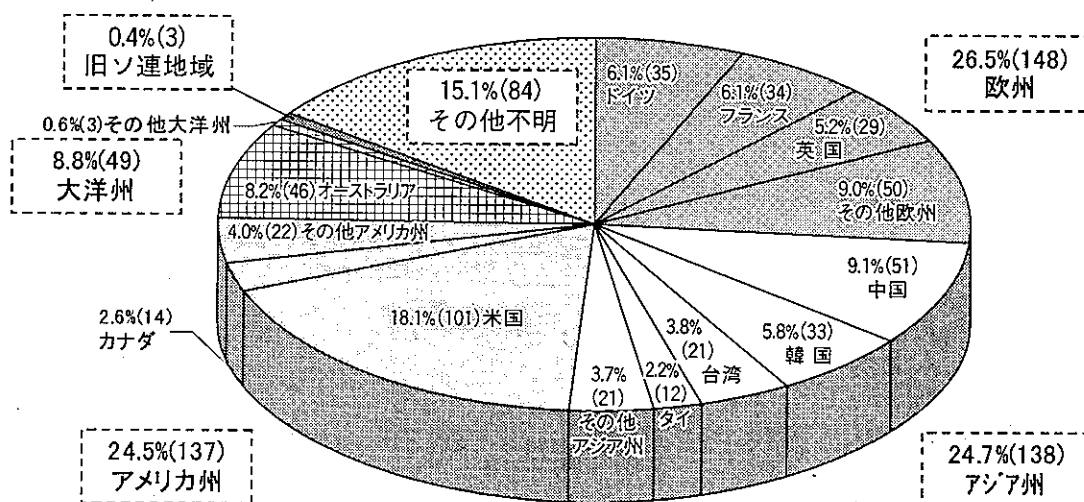


次に、地域別に外国人観光客の割合を見ると、欧州からの観光客が全体の26.5%を占めて最も高く、次いでアジア州が24.7%、アメリカ州が24.5%となっている。

なお、国籍別では米国が第1位（18.1%）、第2位が中国（9.1%）、第3位がオーストラリア（8.2%）の順となっている。

図19 国籍・地域別外国人観光客の割合

単位：千人



3 観光客数及び観光消費額の状況

(1) 観光客数の推移

平成20年の総観光客数は5,632万人となり、そのうち入込観光客^(注)は、前年に比べて11.0万人(▲2.5%)減少し、4,217万人となっている。

また、地元(市町内)観光客は1,415万人で、前年に比べて19万人(▲1.3%)減少し、総観光客数に占める割合は25.1%となっている。

(注) 入込観光客：各市町を当該市町の区域外から訪れた観光客

単位：万人、%

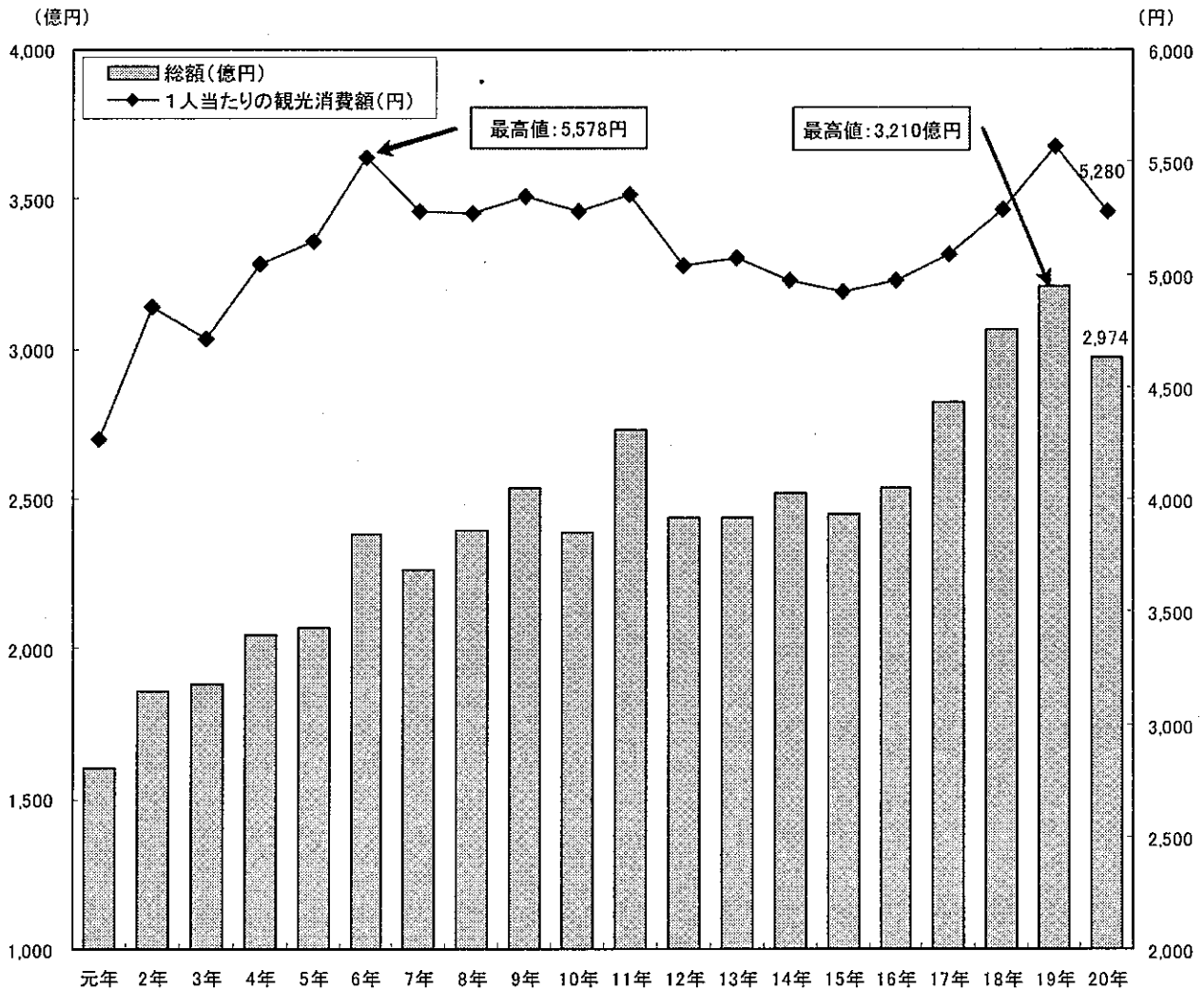
区分	年次	県内観光客			県外観光客 (C)	入込観光客 (B) + (C)	総観光客数 (A) + (B) + (C)
		地元観光客(A)	市町外観光客(B)	計(A)+(B)			
実 数	元年	656	1,355	2,011	1,747	3,102	3,758
	2年	667	1,387	2,054	1,774	3,161	3,828
	3年	696	1,437	2,133	1,831	3,268	3,964
	4年	711	1,490	2,201	1,845	3,335	4,046
	5年	749	1,456	2,205	1,817	3,273	4,022
	6年	817	1,540	2,357	1,959	3,499	4,316
	7年	836	1,553	2,389	1,870	3,423	4,259
	8年	893	1,651	2,544	1,999	3,650	4,543
	9年	900	1,746	2,646	2,096	3,842	4,742
	10年	898	1,678	2,576	1,944	3,622	4,520
	11年	960	1,788	2,748	2,350	4,138	5,098
	12年	984	1,753	2,737	2,107	3,860	4,844
	13年	1,042	1,747	2,789	2,014	3,761	4,803
	14年	1,126	1,887	3,013	2,048	3,935	5,061
	15年	1,081	1,891	2,972	2,004	3,895	4,976
	16年	1,162	1,885	3,047	2,051	3,936	5,098
	17年	1,212	2,003	3,215	2,341	4,344	5,556
	18年	1,433	1,945	3,378	2,421	4,366	5,799
	19年	1,434	1,968	3,402	2,359	4,327	5,761
	20年	1,415	1,886	3,301	2,331	4,217	5,632
構 成 比	元年	17.5 (32.6)	36.1 (67.4)	53.5 (100)	46.5	82.5	100
	2年	17.4 (32.5)	36.2 (67.5)	53.7 (100)	46.3	82.6	100
	3年	17.6 (32.6)	36.3 (67.4)	53.8 (100)	46.2	82.4	100
	4年	17.6 (32.3)	36.8 (67.7)	54.4 (100)	45.6	82.4	100
	5年	18.6 (34.0)	36.2 (66.0)	54.8 (100)	45.2	81.4	100
	6年	18.9 (34.7)	35.7 (65.3)	54.6 (100)	45.4	81.1	100
	7年	19.6 (35.0)	36.5 (65.0)	56.1 (100)	43.9	80.4	100
	8年	19.7 (35.1)	36.3 (64.9)	56.0 (100)	44.0	80.3	100
	9年	19.0 (34.0)	36.8 (66.0)	55.8 (100)	44.2	81.0	100
	10年	19.9 (34.9)	37.1 (65.1)	57.0 (100)	43.0	80.1	100
	11年	18.8 (34.9)	35.1 (65.1)	53.9 (100)	46.1	81.2	100
	12年	20.3 (36.0)	36.2 (64.0)	56.5 (100)	43.5	79.7	100
	13年	21.7 (37.4)	36.4 (62.6)	58.1 (100)	41.9	78.3	100
	14年	22.2 (37.4)	37.3 (62.6)	59.5 (100)	40.5	77.8	100
	15年	21.7 (36.4)	38.0 (63.6)	59.7 (100)	40.3	78.3	100
	16年	22.8 (38.1)	37.0 (61.9)	59.8 (100)	40.2	77.2	100
	17年	21.8 (37.7)	36.1 (62.3)	57.9 (100)	42.1	78.2	100
	18年	24.7 (42.4)	33.5 (57.6)	58.3 (100)	41.7	75.3	100
	19年	24.9 (42.2)	34.2 (57.8)	59.1 (100)	40.9	75.1	100
	20年	25.1 (42.9)	33.5 (57.1)	58.6 (100)	41.4	74.9	100

(2) 観光消費額の状況

平成20年に、観光客が本県において交通費、宿泊料、みやげ品代、飲食代、入場料などに消費した観光消費額の総額は2,974億円で、前年に比べて236億円(▲7.4%)の減少となり、5年ぶりに前年を下回った。

また、観光消費額の総額を総観光客数で除した1人当たりの観光消費額^(注)は、前年より292円(▲5.2%)減少し、5,280円となっている。

図20 観光消費額の推移



(注) 1人当たり観光消費額＝総観光消費額／総観光客数

なお、観光消費額については、各市町が推計したものを県でとりまとめたものである。

